

エサを与えることで

生まれる「責任」

平成25年中、福岡県で殺処分となった犬・猫の数は5,945頭に及び、そのうち猫は約8割の4,790頭を占めます。さらに、その多くが野良猫が産んだ子猫です。

「殺処分される子猫」と聞くと、「かわいそう」という思いが生まれる方がほとんどではないでしょうか。

では、子猫たちはなぜ殺処分されてしまうのでしょうか。

その原因をたどると、ルールのないエサやりに行き着きます。エサを与えることで生まれる「責任」と、不幸な猫を増やさないために何をすべきか、考えてみませんか。



野良猫に困っている人がいることを知ってください

エサを与えることで増え続ける「不幸な猫」

桂川町では、エサを与えることで増えた野良猫によって、様々な被害が起きています。役場に寄せられる主な被害内容は、次のようなものです。

- 野良猫が庭にフンや尿をしととても臭く、処理も大変
- 夜中に大きな声で鳴くので眠ることができない
- 出していたごみを野良猫が漁り、散乱させている

猫は生き物です。飼い主のいない野良猫は飼い猫と違い、決められた場所で排せつすることはほとんどなく、他人の家の庭や駐車場、子どもたちが遊ぶ砂場などに所構わず排せつを行います。

また、エサを与えられた野良猫は、栄養状態が良くなり、通常より多くの子猫を産みます。年に2〜3回、一度に5匹前後の子猫を産み、1年で10〜15匹という勢いで増え続けます。

面倒をみる人がいないままエサだけを与えられ、増え続けた野良猫は、地域に迷惑をかけるだけでなく、病気になった場合に治療を受けることができません。その結果、保健所に持ち込まれ殺処分されたり、治療を受けることができずに死んでいったりする「不幸な猫」となってしまいます。

「かわいそうだから」とその場だけの善意でエサを与える人がいますが、エサを与えた時点でその人には「責任」が生まれます。それは、「最後までその猫の面倒をみる」という責任です。フンや尿の処理や不妊・去勢手術の実施など、エサを与えたことによる責任を果たさなければ、「不幸な猫」は増え続けていきます。

← NEXT
不幸な猫を増やさないためには…

